

平成29年度シラバス（スーパーサイエンス） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	スーパーサイエンス（科学と社会生活）	単位数	4単位	学年・系	1学年（理数科）
使用準教科書	『最新現代社会』（実教出版）、『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍）				
副教材等	『フォーラム現代社会』（とうほう）、『最新生活ハンドブック』（第一学習社）				

1 学習目標

「持続可能な教育」（ESD）をとおして、科学技術と社会の結びつきを体験的に学ぶとともに、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断し、家庭や地域、日本、世界の抱える課題を解決するための能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

- ①「現代社会」と「家庭基礎」の内容を精選し、共通性の高いテーマについて有機的な関連を図り、具体的、実践的な学習活動を提供する。
- ②具体的な事例を示しながら、現代社会や家庭生活と科学とのつながりについて考察する。
- ③「現代社会」「家庭基礎」の学習内容の確実な定着を図る。
- ④科学技術に関連のある施設等と連携し、体験的・探究的な活動を実施する。

3 指導計画（「時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法	
4	「人の生涯」 ＊現代社会と家庭基礎の融合単元	教科書	「自分らしく生きる」 「基本的人権と公共の福祉」 「生命科学と情報技術の課題」	・ライフサイクルにおける発達段階の課題と、科学技術や私たちを取り巻く環境について考察する。 ・生命科学と生命倫理の特徴と課題を学び、親の役割と保育、子どもの育つ環境について考察する。 ・高齢社会が進んだ科学的背景を理解し、社会保障の特徴や共生社会のあり方について学び考察する。	18	・授業の取り組み ・第2回定期考査 ・提出物	
5		副教材 ワークシート	「人間としてよく生きる」 「社会保障の役割」 「人生をみつめる」 「子どもを育てる」 「高齢期を生きる」 「共生社会を生きる」				
6	「衣服の機能と材料の性質」 「世界の中の日本」	教科書	「衣生活をみつめ、健康で快適な衣生活を考える」	・現在の衣生活を振り返り、被服を着用する意義を考察する。また、被服材料の性質や管理のしかたを学ぶ。 ・基礎縫いやミシン縫いを学び、作品完成の達成感を味わう。 ・古代日本人の思想と外来思想の基礎基本を学ぶ。 ・民主政治の基本原理と世界の主な政治体制を学ぶ。 ・日本国憲法の制定過程と基本原則を学ぶ。	20		・授業の取り組み ・第4回定期考査 ・提出物
7		副教材 ワークシート	「被服制作」 「古代日本人の思想と外来思想」 「民主政治の基本原理と世界の政治制度」 「日本国憲法の制定と基本原則」				
8	校外活動	ワークシート	「生命科学」 新潟薬科大 DNA 実習 「公害の防止と環境保全」 新潟大学脳研究所「脳のしくみ」		12	・授業の取り組み ・第4回定期考査 ・提出物	
9	「持続可能な社会と私たちの生活」 ＊現代社会と家庭基礎の融合単元	教科書	「わたしたちの生きる社会」 「公害の防止と環境保全」 「住生活をつくる」 「持続可能な社会をつくる」 「生活をデザインする」	・持続可能な社会の形成に参画し主体的に課題を探究する態度を培い、安全で安心な生活と消費について科学的に考察する能力を養う。 ・地球環境問題や環境保全等の課題や取り組みを学び、資源や環境に配慮した生活が営めるようライフスタイルを工夫できる能力を養う。 ・科学技術を享受する現代に生きる人間としての、在り方生き方について考察を深め、家庭や社会の一員として自覚を持って行動することの重要性を学ぶ。	20		
10		副教材 ワークシート					
		ワークシート	「公害の防止と環境保全」 福島実習、水俣病学習				
11	「食品と栄養の科学」 「世界の中の日本」	教科書	「食生活をみつめよう」	・朝食の重要性について理解を深め、健康を保つための食生活について具体的に学ぶとともに、現代の「食の問題」について考察する。 ・食品に含まれる栄養素について、5大栄養素を中心に理解し、毎日の食事の栄養面への意識を高める。 ・政治機構の特色や地方自治と政治			
		副教材 ワークシート	「健康な食生活のために」				

12			「日本の政治機構と地方自治」 「安全な食生活のために」 「食事をつくってみよう」 「日本経済のあゆみと経済成長」 「金融と日本銀行の役割」 「財政と租税の役割と課題」 「現代の企業と中小企業問題」	参加の意義を学ぶ。・食の衛生と安全についての理解を深める。 ・調理の基礎を身につけ、調理技術の定着を図る。 ・戦後日本経済のあゆみと経済成長について学ぶ。 ・金融や日本銀行の役割を学ぶとともに、私たちの生活との関連を考察する。 ・日本の財政と租税の特色や役割を理解するとともに、その課題について考察する。 ・現代の企業及び中小企業の特色について理解するとともに、中小企業や労働者の問題について考察する。	20	・授業の取り組み ・第5回定期考査 ・提出物
	「持続可能な社会と私たちの生活」	ワークシート	「持続可能な社会」 食品科学講座（新潟薬科大学） 東北電力学習		12	
1	「食品と栄養の科学」 「世界の中の日本」	教科書 副教材 ワークシート	「食事をつくってみよう」 「これからの食生活を考えよう」 「国際政治の特質と国際社会の組織化」 「戦後国際政治と現代の課題」 「国際経済の特質と外国為替市場」 「戦後国際経済と現代の課題」 「消費者問題と経済生活」	・調理の基礎を身につけ、調理技術の定着を図る。 ・食生活をより良くするための取組について考察する。 ・国際政治の特質と国際連合の成立やその役割を学ぶ。 ・戦後国際政治の変遷と人種・民族問題等の現代国際政治の動向を学ぶとともに、日本の役割について考察する。 ・国際経済の特質と外国為替市場のしくみについて学ぶ。 ・戦後国際経済の変遷と発展途上国の諸問題等を学ぶとともに、日本の役割について考察する。 ・よりよい消費者としての生き方在り方について考察する。	9	
2	課題解決学習 ＊現代社会と家庭基礎の融合単元	教科書 副教材	「人の生涯」 「衣服の機能と材料の性質」 「世界の中の日本」 「持続可能な社会と私たちの生活」 「食品と栄養の科学」	・グループ学習を通して、課題を設定し、調べ解決策について意見提示を行う。（発表）	17	
3		ワークシート				

4 課題・提出物等

- ・レポートを作成（新聞記事の切り抜き）する。
- ・被服実習と調理実習を行い、成果物を作成する。
- ・校外活動を実施し、活動内容をレポートにまとめ、学習成果を発表する。

5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の観点・基準	家庭や地域の生活及び現代社会に対して関心をもち、それらの課題等について意欲的・主体的に探究し、自己の在り方や解決のための方策等について考察しようとするとともに、衣食生活における実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活及び現代社会から課題を見だし、自己の在り方や解決のための方策を多面的・多角的に考察し、その成果等を、工夫をしながら適切に表現することができる。	家庭や地域の生活及び現代社会に関する資料を様々なメディア等とおして収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用するとともに、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実するために必要な基礎的・基本的な知識や現代社会の諸課題等に対する知識や概念を身に付けている。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト	・諸資料の収集作業等の取り組み状況 ・発表の内容 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容 ・定期考査、小テスト

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

日々変化する社会の中で生活している皆さんが、「持続可能な社会」を実現するために必要な「知識」「思考力」「判断力」「表現力」「技能」等を養います。そのために、皆さんも、意欲的に自ら進んで学習活動に取り組みましょう。その結果、より多くの成果が得られるものと考えています。

教科（科目）	スーパーサイエンス（ESD 探究）	単位数	1 単位	学年・系	第2 学年 普通科
使用準教科書	『高等学校 新物理基礎』（第一学習社）、『改訂版 化学基礎』（数研出版）、『生物基礎』（東京書籍）、『高等学校 物理』（第一学習社）、『化学』（数研出版）、『生物』（東京書籍）、『高等学校 数学Ⅰ』『高等学校 数学Ⅱ』『高等学校 数学Ⅲ』『高等学校 数学A』『高等学校 数学B』（以上、数研出版）、『国語総合 現代文編』（東京書籍）『新訂国語総合 古典編』（第一学習社）『高等学校 現代文B』『古典B（古文編）』『古典B（漢文編）』（以上、第一学習社）、『高等学校 新倫理 最新版』（清水書院）、『政治・経済』（東京書籍）、『世界史B』（山川）、『日本史A』（清水）、『世界史A』（東書）、『日本史B』（山川）、『地理B』（帝国）、『Departure English Expression I』（大修館書店）、『Perspective English Communication I』（第一学習社）、『Vision Quest II』（啓林館）、『Perspective English Communication II』（第一学習社）『高校 社会と情報』（実教出版）（1・2 学年で使用する教科書）				
補助教材等	『三訂版スクエア最新図説生物 neo』『スクエア最新図説化学』（以上、第一学習社）				

学習目標

課題を生徒自ら設定し、調査、観察・実験などを通して研究を行い、課題発見・課題解決の能力を育てるとともに、創造性の基礎を培う。

研究の内容をまとめ、発表し、内容の理解をより深めるとともに、持続可能な社会構築を担う人材に必要なコミュニケーション力・表現力を育成する。

情報機器を活用して課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

小グループでの探究活動を実施する。理系では、4 分野（数学、物理、化学、生物）を設定し、文系では7 分野（社会情報、国際・異文化理解、日本・日本語、教育、政治経済、看護医療・スポーツ・福祉）を設定し、各分野のグループごとにテーマを設定し探究活動に取り組む。

理系では、ESD の観点から課題を設定し、仮説を立て、調査や実験・観察を行い、その結果を考察する。文系では、持続可能な社会の担い手として現代社会の問題を理解し、学問とのつながりを確認しながら、科学的な手法を意識して探究していく。

探究活動をととして、理系では科学的な表現やデータの取り扱いについて、文系では調査研究方法や情報収集についても学ぶ。また理系文系ともに、分野別発表会（口頭発表）、学年発表会（口頭発表）、論文作成を行うことで、内容理解を深め、社会参画に必要な表現力を培う。

3 指導計画（「時間」の欄は授業時間 55 分を 1 時限とした時間数）

(1) 文系

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 月	基礎学習	準教科書等	ガイダンス 研究分野揭示 基本スキルの習得 分野別学習	・持続可能な社会とは何かを知る ・目標と1 年の流れ ・研究とは何かを知る ・研究分野を決定する ・アイディアの出し方、情報収集の方法、整理 ・分析の方法、まとめの方法を学ぶ ・研究分野の基礎を学ぶ	6	・授業態度 ・レポート ・練習問題
6 月	探究活動	準教科書専門書	課題設定 計画作成 調査・研究・情報収集 整理分析	・分野ごとの講義および文献調査 ・課題の立案と設定 ・研究計画の作成 ・調査活動 ・結論予測 ・まとめレポート作成	9	・授業態度 ・レポート
10 月	発表会準備 発表会	準教科書専門書	発表のための準備 分野別発表会 学年発表会	・パワーポイント作成 ・発表原稿、発表資料作成 ・発表練習	9	・授業態度 ・発表内容 ・発表資料
1 月	論文作成	準教科書専門書	個人論文作成	・論文の書き方 ・論文のための情報収集 ・論文作成	7	・授業態度 ・個人論文
3 月	まとめ		総括	・1 年間を通しての反省、感想、アンケート	1	・授業態度 ・レポート

(2) 理系

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4月	基礎学習	準教科書等	ガイダンス 研究分野揭示 基本スキルの習得	・持続可能社会とは何かを知る ・目標と1年の流れ ・分野別テーマ揭示と分野希望調査 ・統計、エクセル・ワード基本実習、研究の進め方とまとめ方	6	・授業態度 ・発問評価 ・レポート
6月	探究活動	準教科書 専門書	課題設定 計画作成 実験・観察 データ分析	・分野ごとの講義および文献調査 ・課題の立案と設定 ・仮説 ・研究計画を作成 ・仮説を検証するための実験や観察 ・情報機器を用いてデータを科学的に処理 ・結果を考察、さらに実験	9	・授業態度 ・発問評価 ・レポート ・ポスター
10月	探究活動 発表会準備 発表会	準教科書 専門書	実験・観察 データ分析 発表のための準備 分野別発表会 学年発表会	・継続して探究活動を行いデータを科学的に分析 ・パワーポイント作成 ・発表原稿、発表資料作成 ・発表練習	9	・授業態度 ・発表内容 ・発表資料・ 授業態度 ・個人論文
1月	論文作成	準教科書 専門書	個人論文作成	・論文の書き方 ・論文のための情報収集 ・論文作成	7	
3月	まとめ		総括	・1年間を通しての反省、感想、アンケート	1	・授業態度 ・レポート

4 課題・提出物等

- ・調査研究・実験・観察レポート・実験ノートの提出
- ・個人論文
- ・発表会資料

5 評価規準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験、情報収集の技能	知識・理解
評価の観点・規準	探究活動に対する意欲的な姿勢、学問への関心がある。 調査・研究・発表などに主体的に取り組むとともに、協働する態度が見られる。 問題解決のために、情報・報技術を積極的に活用している。	社会の事物・現象の中に問題を見出し、調査・観察・実験などを行っている。 事象や知識を的確に整理・分析し、実証的・科学的・論理的に考察している。 結果を客観的・論理的に表現している。	事物・現象に関する調査、観察、実験の技能を習得している。 課題に応じた探究の方法を身に付けている。 ICTを活用し、数学的な知識をもとにデータ処理を行うことができる。	調査、観察、実験などを通して事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。 社会的な問題を認識し、理解を深めている。
評価方法	・探究活動への参加状況 ・発表会での態度・質疑応答の状況 ・提出物の提出状況、提出物の内容	・探究活動への参加状況 ・小論文・レポートの内容 ・ディスカッション・発表の内容 ・実験ノート・ポートフォリオの内容	・実験・情報収集・情報処理の作業に対する取り組み状況 ・レポート・小論文の内容	・探究活動への参加状況 ・小論文・レポートの内容 ・ディスカッション、発表の内容 ・実験ノート・ポートフォリオの内容

6 担当者からの一言

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象を意識し、その法則性について考えてみましょう。（理系）
- 2 社会で起こっている事象と学問のつながりを意識し、興味を持った分野について考えましょう。（文系）
- 3 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもちましょう。
- 4 学んだことを正確に記録し、論理的に考える方法と態度を身につけましょう。

平成29年度シラバス（スーパーサイエンス） 学番22 新潟県立新発田高等学校

教科（科目）	スーパーサイエンス（SS探究Ⅰ）	単位 数	2単位	学年・系	第2学年 理数科
使用準教科書	『高等学校 物理基礎』（第一学習社）、『化学基礎』（数研出版） 『生物基礎』（東京書籍）、『地学基礎』（東京書籍） 『化学』（数研出版） 『数学Ⅰ』『数学Ⅱ』『数学Ⅲ』『数学A』『数学B』（数研出版） 『高校 社会と情報』（実教出版）				
補助教材等	『三訂版スクエア最新図説生物 neo』（第一学習社） 『スクエア最新図説化学』（第一学習社）				

1 学習目標

数学・理科の分野に関する課題を生徒自ら設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。
研究の内容をまとめ、発表し、内容の理解をより深めるとともに、理系人材に必要なコミュニケーション力・表現力を育成する。
情報機器を活用して課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

小グループでの課題研究を実施し、文献や既知の研究調査、研究計画作成、課題設定から仮説を立て、実験・観察をとおして結果を考察する。実験観察の結果から、新たな疑問点を導き出し、試行錯誤を重ねることで内容の理解を深める。
レポート作成やポスター作成をとおして、科学的な表現やデータの取り扱いについて学ぶ。
研究の内容については、途中経過について発表を行い、次年度の「SS探究Ⅱ」につなげる。

3 指導計画（「時間」の欄は授業時間 55 分を 1 時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4月	基礎学習	準教科書等	ガイダンス 研究分野の学習	・目標と1年の流れを示す。 ・文献調査 ・既知の研究分野を調べる。	6	・授業態度 ・発問評価 ・実験ノート ・レポート
5月	探究活動	準教科書 専門書	課題設定 計画作成 実験・観察 データ分析	・課題の立案と設定 ・仮説の設定 ・実験観察計画の作成 ・仮説に対して考えた実験を行う。 ・情報機器を用いてデータを科学的に処理する。 ・結果に応じてさらに実験を行う。 ・必要に応じて大学等専門家の指導を仰ぐ。	18	・授業態度 ・発問評価 ・実験ノート ・レポート
8月						
9月	中間発表		中間発表 （文化祭でポスター発表）	・情報機器を用いたポスター作成 ・ポスターセッション原稿作成	4	・授業態度 ・ポスター評価
10月	探究活動	準教科書 専門書		・中間発表をふまえて、継続して探究活動を行う。 ・仮説に対して考えた実験を行う。 ・情報機器を用いてデータを科学的に処理する。 ・結果に応じてさらに実験を行う。 ・必要に応じて大学等専門家の指導を仰ぐ。 ・探究内容について考察を行い、情報機器を用いたまとめを実施する。	36	・授業態度 ・発問評価 ・実験ノート ・レポート
3月						

4 課題・提出物等

- ・実験ノート・実験レポートの提出
- ・中間発表ポスター

5 評価規準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の観点・規準	探究活動に対する姿勢、学習態度、科学への関心がある。 実験・発表などの場面では、主体的に取り組む姿勢とともに協働の態度が見られる。 問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、主体的に対応している。	科学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行う。また、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察する問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断している。 結果を科学的な理論の構築の元に表現している。 科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し表現している。	科学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。 観察、実験ではICTを活用するとともに、数学的な知識をもとにデータ処理を行う事ができる。 目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	観察、実験などを通して科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・探究活動への参加状況 ・発表会での質疑応答の状況 ・提出物の提出状況 ・提出物の内容	・探究活動への参加状況 ・レポートや中間発表の内容 ・ディスカッションでの発言内容 ・実験ノートの内容	・実験、作業（ICT活用）の取り組み状況 ・レポートや中間発表の内容	・探究活動への参加状況 ・レポートや中間発表の内容 ・実験ノートの内容 ・ディスカッションでの発言内容

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象を意識し、その法則性について考える態度をもちましょう。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもちましょう。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけましょう。

教科（科目）	スーパーサイエンス（SS 探究Ⅱ）	単位数	1単位	学年・系	第3学年 理数科
使用準教科書	『高等学校 物理基礎』（第一学習社）、『化学基礎』（数研出版） 『生物基礎』（東京書籍）、『地学基礎』（実教出版） 『化学』（数研出版） 『高等学校 数学Ⅰ』『高等学校 数学Ⅱ』『高等学校 数学Ⅲ』『高等学校 数学A』 『高等学校 数学B』（以上、数研出版）『高校 社会と情報』（実教出版）				
補助教材等	『三訂版スクエア最新図説生物 neo』（第一学習社） 『スクエア最新図説化学』（第一学習社）				

1 学習目標

数学・理科の分野に関する課題を生徒自ら設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。
研究の内容をまとめ、発表し、内容の理解をより深めるとともに、理系人材に必要なコミュニケーション力・表現力を育成する。
情報機器を活用して課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

小グループでの課題研究を実施し、課題設定から、仮説を立て、実験・観察をとおして結果を考察するとともに、実験観察の途中や結果から、新たな疑問点を導き出し、試行錯誤を重ねることで内容の理解を深める。
レポート作成をとおして、科学的な表現やデータの取り扱いについて学ぶ。
研究の内容をまとめ、科学論文を作成するとともに、発表を行い、内容の理解を深める。

3 指導計画（1時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	研究のまとめ	準教科書等	グループの研究成果をまとめる。	・研究内容について、要旨を作成する ・発表用の PP とポスターを作成する ・論文を作成する	21	・授業態度 ・提出物
7 8 9	SS 探究発表	準教科書専門書	・校内発表（SS 探究発表会と芝高課題研究発表会） ・新潟県 SSH 課題研究発表会	研究成果についてディスカッションを行う。	10	・授業態度 ・発問評価 ・レポート
10	報告	準教科書専門書	文化祭でポスター発表を行う。	情報機器を用いたポスター作成	0	・授業態度 ・ポスター評価
10	論文集作成	準教科書専門書	論文集作成	論文の完成	1	

4 課題・提出物等

・要旨集、発表用 PP、ポスター、論文を作成します。

5 評価基準と評価方法

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の観点・規準	探究活動に対する姿勢、学習態度、科学への関心がある。 発表などの場面では、主体的に取り組む姿勢とともに協働の態度が見られる。 問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、主体的に対応している。	科学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行う。また、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察する問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断している。 結果を科学的な理論の構築の元に表現している。 科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	科学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。 観察、実験では ICT を活用するとともに、数学的な知識をもとにデータ処理を行う事ができる。 目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	観察、実験などを通して科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・探究活動への参加状況 ・発表会での質疑応答の状況 ・提出物の提出状況 ・提出物の内容	・探究活動への参加状況 ・要旨、論文、ポスターや発表の内容 ・ディスカッションでの発言内容	・実験、作業（ICT活用）の取り組み状況 ・要旨、論文、ポスターや発表の内容	・探究活動への参加状況 ・要旨、論文、ポスターや発表の内容 ・ディスカッションでの発言内容

以上の観点を踏まえ、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

- 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもちましょう。
- 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもちましょう。
- 学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けましょう。